

■ サンタアニタトロフィー (SIII) アラカルト (過去全 39 回の分析)

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 16 回 (平成 7 年) までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回 (平成 15 年) から第 24 回 (平成 16 年) までは大井ダ 1,590m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は大井ダ 1,800m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は国際招待競走、別定競走として実施

※記録は令和元年 7 月 10 日時点

■ 1 番人気馬と 2 番人気馬の 3 着内率はほぼ同じ

単勝 1 番人気馬は 12 勝、2 着 6 回、3 着 1 回で、3 着内率が 48.7%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 51.3%、単勝 3 番人気馬は 5 勝、2 着 3 回、3 着 5 回で、3 着内率が 33.3%となっている。単勝 1 番人気馬は勝率 (30.8%) や連対率 (46.2%) こそ優秀だが、3 着内率は単勝 2 番人気馬とほぼ同じだ。

■ 人気馬が上位を占めた例は意外と少ない

過去 39 回のうち 23 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。ただし、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 7 回しかないうえ、単勝 3 番人気以内の馬が 1~3 着を占めた例はまだない。

■ 優勝馬の大半は 4~5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 14 勝、5 歳が 12 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝 (8 歳ならびに 10 歳以上は未勝利) となっている。なお、3 歳の馬は第 3 回 (昭和 57 年) のレイクルイーズのみ。

■“トップハンデ”の馬は9勝

過去39回のうち9回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たしている。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たしたのは2回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第6回（昭和60年）のテツノカチドキに課されていた59.5kgが最高、第2回（昭和56年）のダイロクホームイと第3回（昭和57年）のレイクルイーズに課されていた50kgが最低だ。

■牝馬は2勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第3回（昭和57年）のレイクルイーズ、第9回（昭和63年）のイーグルシャトーと、これまでに2頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第25回（平成16年）でナイキゲルマンが、第28回（平成19年）でシーチャリオットが2着となったものの、まだ優勝例がない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7勝の的場文男騎手が単独トップ。石崎隆之騎手、張田京騎手が4勝で2位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイとなっている。

■外寄りの枠番がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6枠（8勝）が単独トップ。7枠と8枠（各6勝）が2位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、6番（5勝）が単独トップ。1番と8番（各4勝）が2位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

<伊吹雅也>